

清荒神参道俳句会

九月句会

眠たげな生徒の顔の九月かな

三田市 葉子

法師蝉身の丈限り鳴きにけり

三田市 良男

枝豆は根つき泥つき丹波黒

尼崎市 久美

芒の穂手に遊ばせて登りきる

宝塚市 千津子

庭下駄の下に闇あり昼ちちろ

大阪市 冬女

愛でながらそぞろ歩きや萩の道

西宮市 忠見

秋暑し今にも落ちん付け睫毛

宝塚市 百樂

やうやくに芙蓉の似合ふ空となり

宝塚市 きよ子

農小屋の軋む扉や昼ちちろ

岡山市 幸

こほろぎや地震の瓦礫の闇探し

神戸市 蔚

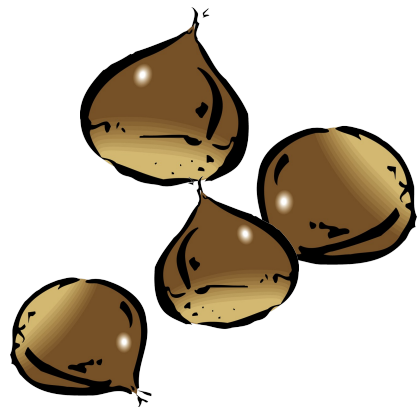
迷い来て居間に鎮座の青バツタ

宝塚市 朔子

おさな見も正座している地蔵盆

宝塚市 すや子





身の無沙汰を詫びて墓洗ふ

宝塚市 昭六

沙羅の花諸行無常の美しき

宝塚市 博昭

身の錆を落すに遠し桐一葉

箕面市 梅野

溪谷の流れにまかせ桐一葉

大分市 恵一

文月や古書即売の店に立ち

大阪市 久次

夕風に蝟うれし休処

宝塚市 ひで子

人知れず群れて花咲く鷺の花

宝塚市 任

望郷に花火のごとし我が人生

宝塚市 陸奥江

虫の声耳に寫経の筆はこぶ

尼崎市 秀子

鈴虫の今年も響くコンサート

宝塚市 次郎

枝豆に生産履歴添えてあり

宝塚市 芳山

山からの風かなかなの声まどひ

川西市 郁子

